

mmp×東京アートポイント計画

長島確のつくりかた研究所 若手研究員募集



これまでさまざまな舞台作品やアートプロジェクトに関わってきたドラマトゥルクの長島確が、新しいプロジェクトとして研究所を開設します。

名づけて《つくりかた研究所》。近年増えつつあるアートプロジェクトにおいて、既存の方法論ではカバーしきれないジャンル横断・異種混交的な「つくりかた」の可能性を、ひっそり、じっくり研究開発する場を目指します。

この研究所では、ベテランと組んで活動する若手研究員を募集します。

取り組む課題は〈「だれかのみたゆめ」をまちなかに出現させること〉。劇場外でのパフォーマンスの企画制作と同時にドキュメント／アーカイブの方法も探ります。

詳しくは、裏面をよくお読みのうえ、ぜひご応募ください。

ベテラン研究員

長島確（ドラマトゥルク） 中野成樹（演出家） 小澤英実（文筆家）
須藤崇規（映像エンジニア） 川瀬一絵（写真家） 佐藤慎也（建築家）ほか

mmp×東京アートポイント計画「長島確のつくりかた研究所：だれかのみたゆめ」

主催 東京都 東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）

一般社団法人ミクストメディア・プロダクト

協力 中野成樹＋フランケンズ 日本大学佐藤慎也研究室 東京藝術大学市村作知雄研究室

募集対象 学生またはそれに準ずる若手

たとえばこんな方面（順不同）／演出・振付・企画制作・マネージメント・音楽・音響・照明・映像・写真・文筆（創作に限らず）・デザイン・編集・料理・コンピュータープログラム・アーカイブ その他なんでも

募集人数 12名程度

しめ切り 平成25年6月20日（木）17:00

活動期間 平成25年7月～平成26年3月

*7月2日（火）夜 キックオフ

*9月下旬（予定）上演1／平成26年1月（予定）上演2

*活動開始後、フィールドワーク（複数のグループで随時）および報告会＋読書会（月1、2回のペースを想定。テキスト『アトレウス家の建て方』）を行います。また上演前は集中的に活動します。

応募方法

お名前、連絡先、簡単なプロフィールと志望動機（書式自由）をメールまたはFAXでお送り下さい。

応募者全員と個別に面接のうえ、順次選考・採用していきます。

応募・お問い合わせ

E-mail：mmp_info@me.com ミクストメディア・プロダクト 長島確

FAX：03-5638-8811 東京文化発信プロジェクト室 坂本

*お預かりした個人情報は主催者からの連絡にのみ使用し厳重に管理します。

東京アートポイント計画

「東京アートポイント計画」は、東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により創造・発信することを目指し、「東京文化発信プロジェクト」の一環として東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が展開している事業です。

つくりかた研究所と研究員募集について

長島 確

このたび、研究所を開設します。

ここ数年、『墨田区／豊島区／三宅島在住アトレウス家』を中心に、劇場外での演劇作品づくりに関わってきました。劇場ではそれなりに経験を積んできたつもりですが、一歩外に出ると、びっくりするくらい色々なことが通用しないことがわかりました。あらためて、劇場って便利。

でもその一方、外の世界は、劇場ではできないさまざまな可能性に満ちていて、しかもそこでは、演劇（劇場）のノウハウを思わぬ形で使って、もっとちがった、面白いことができそうなのです。

ただしこの可能性を試すには、劇場と同じ作り方をしているのはダメです（しようとしても無理です）。作り方から変えていかないといけない。作り方から作らないといけない。

それを研究・開発するための、ちいさな研究所。つくりかた研究所。

そこで、若手研究員を募集します。

いっしょに作り方から考えるひとがほしい。ここでの研究・開発のプロセスは、ルールに乗っかってできるようなものじゃなく（そうだとしたら終わりです）、ときにはめんどくさく、頭を抱えるようなものでしょう。でもそこを踏ん張って、新しい、面白い、わくわくするようなことをいっしょにできたら最高だと思います。

結果として、その経験が、若い人の勉強にもなればいいと考えています。ちょっとは人材育成プログラムみたいな色気もある。じつはいま、こういうことに長けた人材が、もっともっと必要とされているから。

だから学生（またはそれに準ずる若い人）を募集します。

でもこれは、講座や学校ではないので、受け身の受講生は要りません。本気でいっしょにやる気のあるひとを歓迎します。

研究所には、ベテランにも加わってもらいます。演出の中野成樹。文筆・翻訳の小澤英実。映像の須藤崇規。写真の川瀬一絵。建築の佐藤慎也。みんな、ベテランというにはやや若いかもしれないけど、それぞれがつつり経験があり。

若手研究員には、わたしを含めたこのメンバーといっしょになって、劇場外でのパフォーマンスを企画する課題に取り組んでもらいます。現場のイメージとしては、刑事物といったところでしょうか。つまり、ベテランと若手が組んで、同じヤマを追う感じ。若手にとってはきっと猛烈な経験になるでしょう。

取り組む課題は、「だれかのみたゆめ」をまちなかに出現させること。

個人の見た夢かもしれないし、集団の夢かもしれないし、夜見る夢かも、将来の夢かもしれません。必ずしもよい夢じゃないかもしれない……

この課題を、どうしたらわくわくするような企画として実現させられるか、いっしょに本気で考えましょう。

また、まちなかに出現した夢を、どうしたら捕獲し、記録できるかも考えます。つまり、アーカイブやドキュメントにも取り組みます。それがたんなる記録を超えて、別の作品になるくらいまで考えられたら理想です。

何か面白いこと、新しいことがしたい、ベテランといっしょの現場で経験が積みたいと思っている学生、またはそれに準ずる若手のひと、ぜひ来て下さい。

応募をお待ちしています。

長島 確（ながしまかく）

1969年生まれ。日本におけるドラマツルクの草分けとして、さまざまな演出家や劇団の作品に参加。また『墨田区／豊島区／三宅島在住アトレウス家』や『構造茶話会』（ともに東京アートポイント計画）等のプロジェクトや講座も手がける。ミクストメディア・プロダクト／中野成樹＋フランケンズ所属。